

## 子牛の下痢対策について

子牛の下痢は、多いところでは生後 1 か月以内の子牛の 50%にも及ぶという報告があります。下痢になると、その後の増体が悪くなり、ひどいときには死亡することもあります。

下痢の原因となる病原菌には、ウイルス(ロタウイルス等)や細菌(大腸菌等)などがありますが、今回は、子牛の下痢予防の観点から、基本となる3つのポイントを説明します。

### (1) 初乳をできるだけ早く給与する

抗体濃度の高い初乳を、生後 6 時間以内、理想は 1 時間以内に飲ませましょう。初乳を早く飲ませることは、子牛に免疫を付与して病原菌の侵入を防ぎます。

給与量は、体重の 8~10% (3~4L) が目安です。今は 3L、4L といった大型のほ乳ボトルもあるので検討してください。

給与する初乳は、乳房炎牛、漏乳している牛のものは避けましょう。初産牛よりも、できれば農場に長くいる経産牛のものがよいです。

#### ★さらにチェック！「ほ乳器具の衛生状態」

ほ乳ボトルやバケツなどのほ乳器具の汚れは、ミルクの細菌数を増やすことにつながり、それを飲んだ子牛が下痢になる可能性があります。使用したほ乳器具は、家庭用洗剤ではなく、ミルカーと同様に、専用の洗剤を使って確実に洗浄しましょう。

体重の 8~10%  
(3~4L) を給与する



大型のほ乳ボトルの利用も

### (2) 子牛は、清潔で乾いた環境で管理する

子牛は、すきま風にさらされたり、濡れた状態に置かれると体熱が奪われ、体を冷やすことで下痢になり、増体が悪くなります。

敷料がたっぷり入ったペンやハッチなど、清潔で乾いた場所で管理しましょう。

敷料はたっぷり！



### (3) 代用乳の濃度、温度は一定にする

代用乳は、メーカーの指定濃度を守って給与しましょう。多く与えようとして代用乳の濃度を濃くすると、下痢になることがあります。

代用乳の給与量を増やすには、いつも給与しているミルクの濃度はそのままにし、ミルクの給与量を増やすことで対応します。また、ミルクの温度は 40℃程度になるように調整しましょう。

**生まれた子牛は、農場のこれからを担う大切な後継牛です  
適切な管理で、子牛を健康に育てましょう！！**